

## 島マス記念塾

沖縄県沖縄市

### 【活動概要・効果】

#### ☆次代のまちづくりを担う人材の育成

○「地域を知り、地域を愛し、地域を誇れる」若い人材の創出を目的とし、まちづくりの実践及び提言を行っている。塾のOB・OG集団である島マス記念塾塾友会も、市内の各種イベントや企画部門等に参画し、まちづくりに関して様々な意見や提言を行っており、記念塾の側面的支援を行っている。

☆沖縄市または周辺地域をモチーフとした社会福祉、文化、歴史等多岐にわたる分野を毎月2回の講義で学ぶとともに、地域の課題をテーマとしたディベートを行うことで、地域について考えるだけでなく自己啓発にも取り組むなど、人材育成と地域活性化の検討を効果的に行っている。予算面、運営面も民間組織が自主的に行うなど、住民自らが地域の人材育成に積極的に取り組んでいる。



第3回ディベート研究発表大会

#### 《人員確保での工夫・苦労》

第10期の頃から受講希望者数は伸び悩み傾向にあった。それに対して、塾運営について多角的視点から検討を行った。例えば、すべての卒塾生を対象にアンケート調査を実施した。これらの結果を踏まえ、当初は市民（職場含む）を対象とした募集の範囲を若干名「特別枠」として近隣市町村に広げた。これは塾名に冠する故・島マスの福祉理念と活動範囲を基礎にしており、更には「他地域からの視点」を組み入れることにより、塾生達の議論の活発化とともに、当市の再認識を図ることを目的とした。以降、塾の質的向上とともに受講希望者も安定してきた。

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

当塾は多彩な人材を輩出し社会的評価も高いが「島マス記念塾後援会」の存在もその財政的基盤を支えているといえる。しかしながら、活動資金面での課題としては設置主体からの予算措置、すなわち社協からの持ち出し分の確保である。

近年の経済不況は等しく福祉分野にも吹き荒れており、社協会費や寄付、共同募金などの落ち込みにより、社協の財源確保は容易ではない。「地域づくりは人づくり」といわれるが、行政に対しては厳しい財政状況のなか引き続き支援をお願いしたい。

#### 【現場の声】

塾を継続的に運営していくためには、何はなくとも財政面における安定的な確保が必要不可欠である。よって、建塾当初よりその確保に心血を注いだ。当塾の財源は、①受講料、②設置主体（沖縄市社会福祉協議会）からの予算措置、③共同募金会からの配分金、④行政（沖縄市）からの補助金で賄われている。市からの財政支援は建塾当初から塾の運営を支えてきた。しかし、近年の財政難の影響で、年々減少化傾向にある。それに伴い、当塾では講師謝礼金はじめとする運営費の節減に努めるとともに当塾と並行して組織化した「島マス記念塾後援会」により、当初抱えていた「入・卒塾パーティー」や「フォローアップ事業」などを委託し、財政面における支援を得ることができた。

～島マス記念塾 名嘉 隆一さん



第2回ディベート研究発表大会